

○引用文献

大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本タマムシ図鑑. 120pp. むし社, 東京.

福富宏和・山田航・瑤寺裕・尾園暁, 2022. 森の宝石。タマムシハンドブック. 112pp. 文一総合出版, 東京.

(Daisuke SATOMI 兵庫県立人と自然の博物館)

兵庫県南東部で 2025 年にチュウゴクアミガサハゴロモを撮影

宇野宏樹

チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* は, 中国を原産とする外来種のアミガサハゴロモの仲間である(外村・大原, 2024). 兵庫県においては, 上郡町で 2022 年に発見されている(大貝, 2023). 筆者は 2025 年に本種を兵庫県宝塚市および西宮市で撮影したので, 近年の分布状況の例として報告しておきたい.

1ex. (写真 1), 兵庫県宝塚市栄町阪急宝塚駅構内. 5. X. 2025. 筆者撮影.

1ex. (写真 2), 兵庫県西宮市甲山町付近. 6. IX. 2025. 筆者撮影.

宝塚市産の個体は, 阪急宝塚駅構内に落ちていた個体を撮影したものであり, 西宮市産の個体は, 植物体に静止していた個体である. 本種は外来種とされているので, 今後の動向に注意が必要だと思われる.

○引用文献

大貝秀雄, 2023. 上郡町で近年確認された新参外来昆虫. きべりはむし, 46(2): 32-33.

外村俊輔・大原賢二, 2024. チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977) の徳島県からの初記録. 徳島県立博物館研究報告, 34: 77-80.

(Hiroki UNO 大阪府池田市)



写真 1. 宝塚市で撮影された個体.



写真 2. 西宮市で撮影された個体.

神戸市須磨区でキムネクロナガハムシの死骸を発見

楠本悠貴

2025 年 12 月 14 日に神戸市須磨区で甲虫の死骸を 1 個体見つけた. 家にもって帰ってハムシハンドブック(尾園, 2020) で調べたところ, キムネクロナガハムシに似ていると思った. この昆虫は南太平洋諸島原産で, 国内では琉球に分布していると言われていたので, 兵庫県にいるのはおかしいと思った. しかし, 死骸をひろった場所は, この昆虫の食草であるヤシの木の下だったので, そのヤシの木に付いていたのではないかと思った.

2026 年 1 月 11 日にもう一度同じ場所へ調査にいった. 今回の調査の結果, 頭部, 胸部, 腹部がそろった死骸が 7 個, 頭部が取れた死骸が 3 個, 腹部のみの死骸が 1 個, 上翅のみが 7 枚, 幼虫と思われる死骸を 1 個見つけた. ヤシの葉には食痕が多く付いていた. 単眼鏡でヤシの木を観察したが, 生きている個体は見つからなかった. しかし, 調査をしたヤシの葉には食痕が多く付いていたので, キムネクロナガハムシがヤシを食べたのではないかと思う.



図 1. 神戸市須磨区で採集されたキムネクロナガハムシ.



図 2. 1 月 11 日の調査結果.